

【発見した傾向】

・早期デビュー（小1～小3）」の方が親子喧嘩少ない！？

小1～小3で与えた家庭（図1の小1～小3）は、ほとんどが「喧嘩なし（青色）」です。「早く持たせるとトラブルになる」という心配とは裏腹に、ルール作りがうまくいっているか、親の管理下で安全に使用している可能性があります。

・高校生以降と今だにわからないに潜む要因

逆に、高校生まで待たせた家庭や、いつ渡すか迷っている家庭では、「言い争い（オレンジ）」の比率が非常に高いです。

考えられる事としては、「スマホがないこと」自体が不満の種になっているか、あるいは「厳格な家庭方針」が思春期の子どもとの衝突を生んでいる可能性があります。

・中1が最大の分岐点

最も多い「中1デビュー」層は、喧嘩「あり」と「なし」が半々です。どのように各家庭でスマホの使用方法について話し合うかが大事ということが考えられます。

・まとめ

いつ渡すかより、どう使うかを親子で話せている家庭が良好な親子関係を築けている可能性があります。

(アンケート結果より)

今回、保護者 59 名 (n=59) からいただいたアンケート結果をもとに、「子どもの夢を知っているかどうか」と「親子喧嘩の状況」**の関係を分析しました。

その結果、「子どもの夢を知っている＝親子喧嘩が起きない」という単純な関係ではないことが分かりました。

一方で、子どもの夢や将来について把握している家庭では、無視などの深刻なすれ違いが少ない傾向が見られました。

言い争いがあった場合でも、対話を通じたやり取りにとどまっている家庭が多いことが特徴でした。

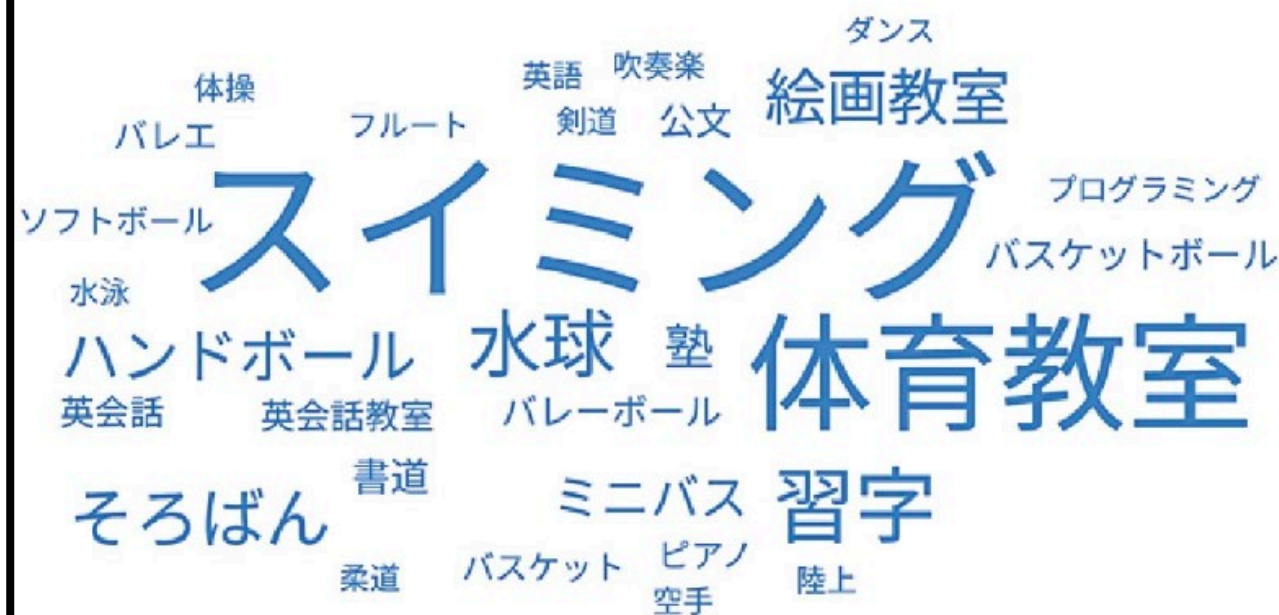
統計的な分析では、はっきりとした差があるとは言えない結果でしたが、日頃の会話や関心の共有が、親子関係の質を支えている可能性が示唆されました。

思春期は、考え方や価値観が大きく成長する時期です。意見がぶつかること自体は、必ずしも悪いことではありません。大切なのは、会話が途切れず、気持ちを伝え合える関係を保つことだと考えられます。

今回のアンケート結果が、ご家庭でのコミュニケーションを見直すきっかけになれば幸いです。

※本結果は保護者回答のみ (n=59) を対象としたもので、個々の家庭を評価するものではありません。

子どもにどんな習い事をさせていますか

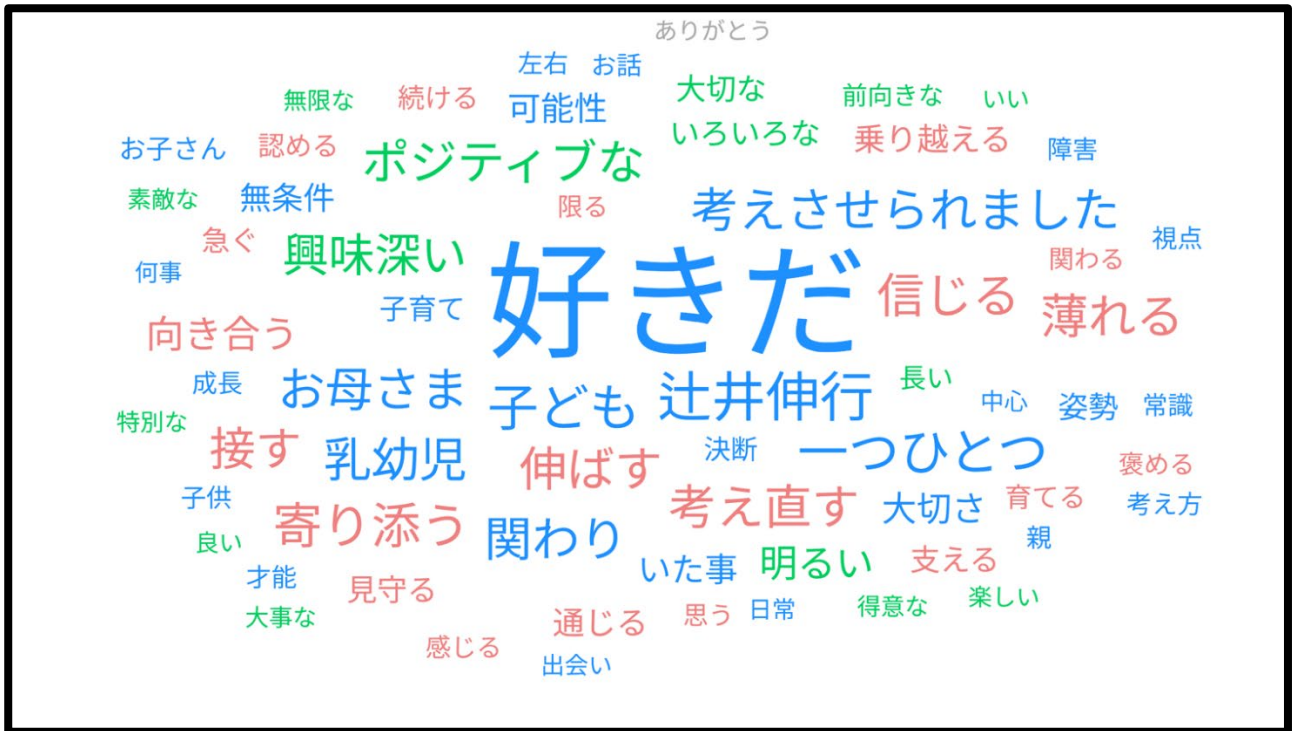


子どもにどんな習い事させていますか (ワードクラウド)

【分析結果】

自由記述の分析から、子どもの習い事としてはスイミングや体育教室などの運動系が最も多く、次いで学習塾や習字といった学習系が多いことが分かりました。

また、絵画教室や音楽などの文化・芸術系も一定数見られ、多くの家庭で一つの分野に偏らず、複数の習い事を組み合わせている様子が見られました。これらの結果から、保護者は子どもに対して、体力や運動能力の向上だけでなく、学力、集中力、表現力など、多様な力をバランスよく育てたいと考えていることが読み取れます。



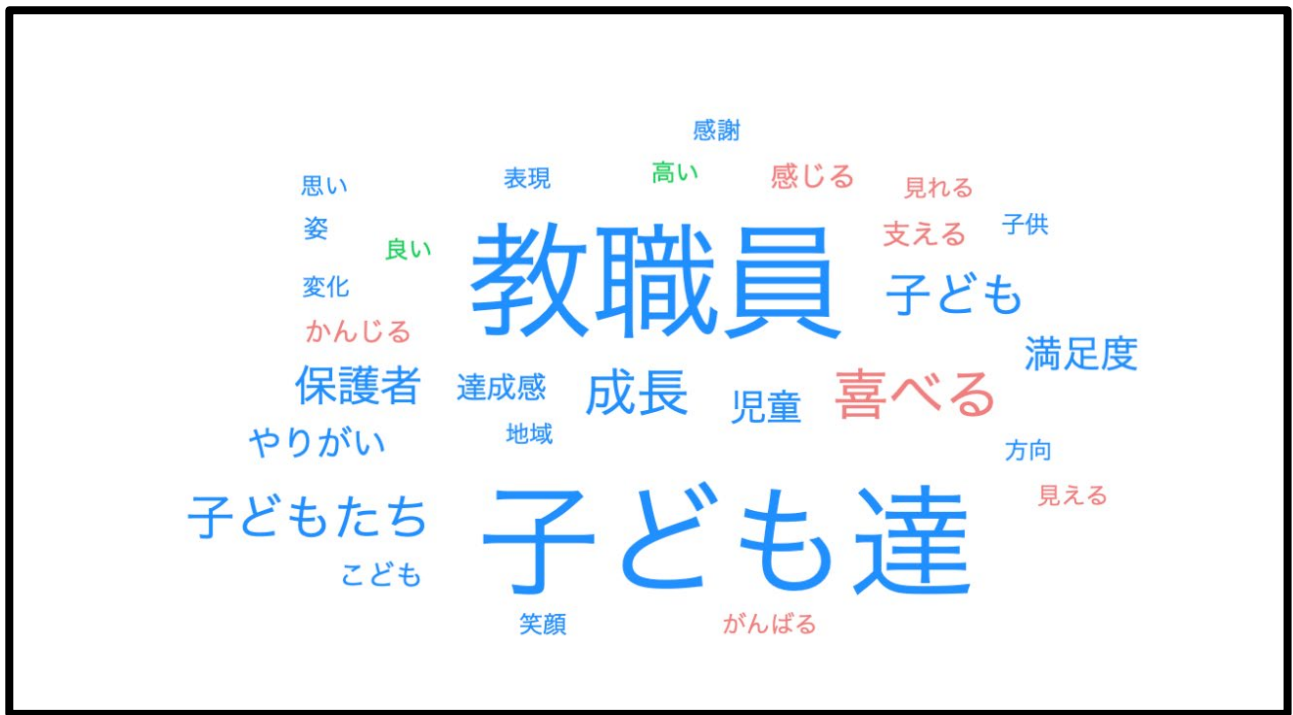
辻井いつ子さんの講演で印象に残ったこと（ワードクラウド）

【分析結果】

光大会で実施された辻井いつ子さんの講演について、参加者の自由記述を分析した結果、講演が多く参加者に深い気づきと前向きな影響を与えたことがうかがえました。分析では、「好きだ」「子ども」「信じる」「寄り添う」「関わり」などといった言葉が中心に見られ、参加者が子育てや教育における基本的な姿勢として受け止めていることが分かりました。

また、「一つひとつ」「可能性」「伸ばす」といった言葉からは、成長を急がせず、その子なりの歩みを大切にする考え方が共有されたことが読み取れます。参加者の中には、「考えさせられた」と感じた人も多く、日々の子育てや教育を振り返る機会となったと考えられます。

今回の講演は、家庭・学校・地域で子どもと関わるすべての立場の人にとって、子どもとの向き合い方や関係性の在り方を再確認する貴重な機会となったといえます。



教職員が「やりがい」を感じる瞬間（ワードクラウド）

【自由記述回答の分析結果】

全体像

分析から、教職員がやりがいを感じる瞬間は、業務内容や評価制度そのものではなく、「子どもの変化・成長を実感できたとき」に強く結びついていることが明らかになりました。

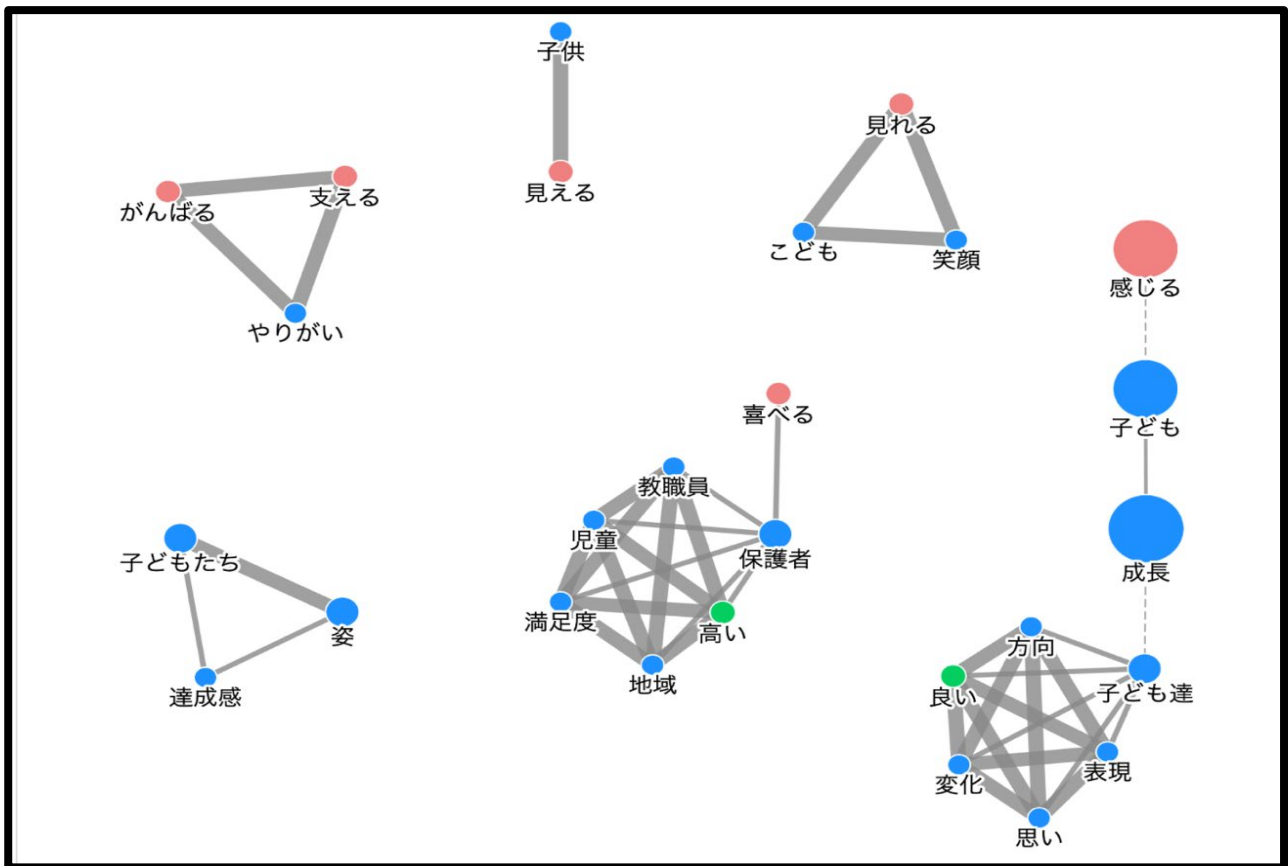
ワードから見える特徴

特に頻出している語は以下の通りです。

「子ども達」「教職員」「成長」
「保護者」「児童」「満足度」
「喜べる」「感じる」「やりがい」

まとめ

「自分」や「業務」よりも「子ども」「成長」などが中心語になっており、教職員のやりがいは子ども・保護者との関係性の中で生まれていると考えます。



教職員が「やりがい」を感じる瞬間（共起ネットワーク）

【自由記述回答の分析結果】

①中核クラスター

【教職員 × 児童 × 保護者 × 地域 × 満足度 × 高い】

教職員のやりがいは子どもだけで完結していない

保護者や地域とつながり、周囲の満足や安心が可視化されたときに強まっている

②教育クラスター

【思い × 表現 × 変化 × 子ども達 × 方向】

- ・子どもが自分の思いを表現できるようになる

- ・行動や考え方が良い方向に変わる

教育の成果を実感した瞬間が深いやりがいにつながっている。

まとめ

子どもの変化・成長を実感できる環境、保護者・地域とつながりながら支援できる関係性によって強く支えられていることが示唆されている。

感想

子どもたちの小さな変化に気づき、成長と一緒に喜ぶことこそが、教職員という仕事の大きな価値であることが、今回の声から改めて確認できました。